

[テーマ]

基準 I -A 建学の精神

- (a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

金城学園は、明治 37（1904）年に金城遊学館として設立された。創始者の加藤廣吉・せむ夫妻は、建学の精神として「遊学の精神の涵養」を掲げた。翌明治 38（1905）年、組織変更を行い金城女学校となった際、時代の要請にこたえる形で「良妻賢母の育成」を建学の精神として追加した。本学は昭和 51（1976）年、金城短期大学として設立したが、これらの建学の精神を受け継ぎ、「手づくりの温かさを持った教育」及び「金城から地球を歩こう」を設立の理念として定めた。これらの文言は、金城大学短期大学部（以下、「本学」という。）の入学式において、理事長自身が告辞の中で毎年説明し、学内外に向けて発信している。また、本学ホームページ等で学内外に表明し、掲示パネル等で学内において共有している。平成 24（2012）年、学園案内冊子を作成した際に、建学の精神を再確認し、現代的な意味合いについて説明文を記載した。

- (b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

建学の精神の学内共有について、特に学生に対する浸透の度合いが確認できておらず、今後は学生アンケート等を通じて理解度を確認する。

〔区分〕

基準 I -A-1 建学の精神が確立している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

「優美にしてかつ面白きもの」これは創始者加藤廣吉（かとうこうきち）がその著書『学校遊戯全書』（明治 37（1904）年）の中で、女子遊戯の将来像として掲げた言葉である。当書の発行と同じ年、かねてから女子教育の向上が必要であると考えていた廣吉は、妻せむとともに、その第一歩として私塾「金城遊学館」を設立した。優美にして面白き女子遊戯の理想像は、よく学びよく遊ぶ「遊学の精神」を涵養する教育の理想像へと発展し、その思いが私塾という形で実現したのであった。形式的な知識をつめこむだけではなく、自由に広く世の中を見聞し、優美にして面白い、深みのある人格形成をはかること。この遊学の精神の涵養は、金城学園すべての学校を通じた不朽の建学の精神として、創立以来 109 年間、脈々と受け継がれている。

明治 38（1905）年、私立女学校としての設立認可が下りた金城遊学館は、組織変更を行い私立金城女学校として再スタートした。生まれ変わった金城女学校は、遊学の精神の涵養に加え、より実践的な女子教育のための建学の精神として「良妻賢母の育成」を掲げた。女性は家庭を守り育児に励むことが大きな仕事と考えられていた時代にあって、金城女学校は、女性としての特性を生かしながら社会に貢献できる人間を、よく遊びよく学ぶ教育を通じて育成したのであった。廣吉は設立 2 年目にして早世したが、その意思を受け継いだ加藤せむは、これらの建学の精神のもと、「率先垂範」、「質素勤勉」を教育理念とし、自身の教育活動のなかですすんで実践していった。逆に「口ばかりの人 虚栄の奴隷たる人 我利主義の人 薄情な人」、この 4 つの姿を強く諫め、戒めた。

大正 13（1924）年、金城女学校は高等女学校に昇格、さらに昭和 23（1948）年には財団法人金城高等学校の認可を受ける。せむの後継者として理事長に就任した加藤二郎（かとうにろう）は、建学の精神を「良き妻・優しき母の育成」と表現し、金城の校風確立のために尽力した。二郎は母せむの真摯なうしろ姿を見ながら、自らの教育理念として次の言葉を残している。

教育とは
云うてきかず事ではない
してみせる事でもない
している事である

これは金城学園の根幹をなす不朽の教育理念として、今なお変わりなく生き続けている。

昭和 40（1965）年、二郎の死後、次男の加藤晃（かとうあきら）が金城高等学校の理事長を引き継いだ。晃は二郎の頃から構想のあった学園の総合化を進展させ、昭和 51（1976）年、現在の金城大学短期大学部の前身である金城短期大学を開学した。折しも高等教育における基盤整備の必要性が示され始めた時

代であり、そのような社会の要請に応える形での開学であった。金城短期大学は、私学としての個性を打ち出すため、学科を通じた本学の設立理念として、次の言葉を掲げた。

「手づくりの温かさをもった教育」

「良妻賢母の育成」に基づき、人の支えとなる人材の育成を目標とする言葉として設定している。一分でも一秒でも多くの時間を学生と過ごし、さまざまなふれあいを通じて、学生一人ひとりが独自の光を放つように個性を伸ばす教育を行うこと（全人格教育）。

「金城から地球を歩こう」

「遊学の精神の涵養」に基づき、何のものにもとらわれない自由な精神を持って、人格を高め磨くことを目標とする言葉として設定している。気軽に世界に乗り出して活躍する道を示す教育を行うこと。地域理解を深めるだけでなく外国の良き点を学び取り入れて地球規模で物事を考える人を育てること（国際化教育）。

特に前者の全人格教育は、学園創立期から目標としている教育理念である。理事長である加藤晃は、二郎の言葉を受け継ぎ、学園全体の教育理念を次の言葉で表現している。

「教育とは先生と学生の全人格のぶつかりあいの中から生まれてくる学生への影響、それも何らかのよい影響である。」つまり、金城では、「学生とともに毎日学内で過ごす生活そのもの」が教育であり、「朝、学校に入って夕方校門を出るまで、すべてが教育」なのである。

これら建学の精神及び教育理念は、本学における入学式において、理事長自身が告辞の中で毎年説明し、繰り返し学内外に向けて発信している。在学生向けには、平成 25（2013）年度に改定した学生配付用資料「Campus Guide」【提出資料：No.6】に記載して示している。また、ポスターを作成しパネルとして掲示することで、学内において共有を図っている。一般向けには、本学ホームページや大学案内パンフレット等【提出資料：No.2・3・4】にも掲載し、学内外に表明している。そのほか、平成 23（2011）年度以降作成している学園案内冊子【提出資料：No.1】にも掲載し、教職員はもとより、学外関係者にも配付して、広く学内外に示すとともに、学内における共有を進めている。当冊子の平成 24（2012）年度版を作成するにあたり、建学の精神の内容を点検・確認し、現代的な意味合いについての説明文を記載した。

【建学の精神、教育理念等パネル（学内設置）】

金城学園	
建学の精神	<p>遊学の精神の涵養 何ものにもとらわれず、自由に広く世の中を見聞し、人格を高め磨いていくこと。</p> <p>良妻賢母の育成 家庭における女性の役割の重要性にかんがみ、周りの人々がより良く幸せに生きるための支えとなる人材を育成すること。</p>
教育理念	<p>「質素勤勉」「率先垂範」（初代）</p> <p>「教育とは 云うてきかず事ではない。してみせる事でもない。している事である。」（二代）</p> <p>「教育とは先生と学生の全人格のぶつかりあいの中から生まれてくる学生への影響、しかも何らかのよい影響である。」（三代）</p>
金城大学短期大学部	
設立の理念	<p>金城から地球を歩こう／手づくりの温かさを持った教育</p>
目的及び使命	<p>教育基本法・学校教育法に則り、建学の精神を基本理念として、専門的な知識技能を修得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成し、併せて有能な職業人としての資質を養うことを目的とする。 (金城大学短期大学部学則 第1条)</p>

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

建学の精神の学内共有は上記の各種方法で図っているが、特に学生の理解度についての点検・確認が不十分である。